

【研究課題の名称】

A病棟で実施している生活指導が心不全患者のセルフケアに与える効果

【研究の目的及び意義】

A病棟は、急性期混合病棟（循環器、消化器内科・外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科）であり、健康段階として急性期や慢性期にあたる患者が多い。このような特性から患者が退院後、自宅での生活において病気の再発や増悪するリスクを最小限に管理することができるよう、各疾患・手術の種類に応じたパンフレットを用いて、患者・家族に対し生活指導を行うケースがある。

その中で、令和2年より心不全患者に対し、スタッフ全員が統一した方法で生活指導を実施できるよう患者教育プログラムを開始した。A病棟では、疾患に関する症状や食事、受診するタイミング等の疾患管理に対する内容が記載されている既製の『慢性心不全手帳』を用いて、心不全と診断された患者に対し生活指導を行っている。しかし、これまで多くの患者に生活指導を行ったが、病棟看護師は患者の退院後のセルフケア状況を認識できていなかった。患者は地域で暮らす生活者であり、指導した内容を実生活でどのように活用しているのか確認ができていなかった。

また、A病棟では、生活指導を実施することに終始してしまい、退院後の生活を見据えた患者教育や患者の準備段階に応じた指導が行えていないのが現状である。この現状から、今回、入院中に実施した心不全の生活指導が患者の退院後のセルフケアにどのような効果を与えているのか調査を行うことが必要であると考えた。

本研究の目的は、A病棟で実施している生活指導が心不全患者のセルフケアに与える効果を明らかにすることである。本研究を行うことで、今後の患者教育に活かす一助になると考える。

【研究対象者の選定方針】

研究対象者：循環器内科医により心不全と診断され、A病棟で心不全の生活指導を受けた患者のうち同意を得られた患者5名程度
尚、ここで言う心不全の生活指導を受けた患者とは、A病棟で研究期間内に生活指導を実施し退院した患者とする。

研究対象の選定基準：1. 認知症生活自立度：該当なし又はIの患者
2. A病棟で作成した心不全の退院指導フローチャートに沿って、患者に退院指導を行なった患者。
1・2の条件で、本研究に同意し協力を得られた者。

除外基準：認知症自立度Ⅱ以上の患者および退院先が自宅以外の患者

※上記の除外基準の設定理由

認知症がある患者では、自宅での自己管理や内容に関して差異が生じることが予測される。また、自宅以外で生活を送る患者では主に施設側が管理を行うため、本研究目的と相違がある。主に自己管理又は家族が管理を行う者を対象と考えた。

【研究予定期間】

承認日（西暦2021年6月4日）から西暦2021年10月31日